

1966
ろう教育科学会
第8回大会
・講習会
プログラム

会 場

25日 京都府立聾学校
京都市右京区御室大内町

26日 京都大学楽友会館
京都市左京区吉田近衛通

27日 京都大学文学部心理学教室
京都市左京区吉田本町

宿泊懇話会(第1日夜) 近江館
京都市左京区京大病院前

懇親会(第2日夕) 楽友会館

C021-140-020-020
[206060788-2(P&)]

第1日 7月25日(月)

8:30 受 付
9:00 大会日程説明
9:20 京都府立聾学校幼稚部授業公開
10:10 開会あいさつ
10:20 大会準備委員長(聾学校長) 河 辺 治
会場校あいさつ
(京都府立聾学校長) 船 越 満 二
10:30 宿題報告
—京都ろうに於ける最近の幼稚部教育—
11:00 質疑・討論
12:00 昼 食
1:00 研究発表(I)
3:30 総 会
4:00 宿泊懇話会

第2日 7月26日(火)

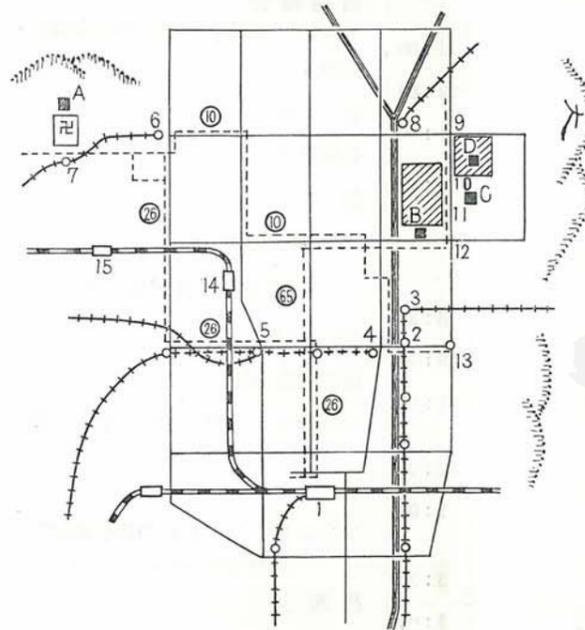
8:30 受 付
9:00 研究発表(II)
11:00 特別講演 京都大学 湯川 秀 樹
「学習と研究」
12:00 昼 食
1:00 シンポジウム「教室のろう教育」(続)
—教育課程をめぐる—
3:30 懇親会
5:00

第3日 7月27日(水)—講習会—

8:30 受 付
9:00 第1部 知能とは
10:30 第2部 知能の測定
12:00 昼 食
1:00 第3部 知能構造
2:30 第4部 討 論
4:00

参会者へのご案内

- 大会会費** 850円, 学生会費750円, 講習会500円
懇親会 第2日目(7月26日)午後3時30分より大会会場(楽友会館)で行います。全員参加を原則として、費用を大会費に含めました。御参加できない方にはお払戻しいたしますので受付へお申出下さい。
昼食 ご希望の方は食券を受け付けてお申込みください。整理の都合上10時30分までにお申込みください。150円程度の予定です。
第3日は会場付近の食堂で自由におとり下さい。
諸費支払 受け付けて諸費支払票をお受取りのうえ、必要事項ご記入のうえお納めください。
会員章 大会会費を納められた方には会員章をお渡します。会期中は必ずおつけください。係員白色のリボンをつけております。
その他 ご入会及び会誌バックナンバー、**モノグラフNo.7**(言語入門期のプログラム—ろう幼児のために—)のお申込みも受け付けます。



- A 京都府立聾学校(仁和寺うら)
B 近江館(京大病院前)
C 楽友会館(東山近衛通東入)
D 京大文学部(百万遍又は東一条)

1. 京都駅(国鉄・近鉄)
2. 京阪四条
3. 京阪三条
4. 阪急四条河原町
5. 阪急四条大宮(阪急・京福)
6. 白梅町(京福電鉄)
7. 御室(京福電鉄・市バス)
8. 出町(京福電鉄)
9. 百万遍
10. 東一条
11. 近衛通
12. 熊野
13. 祇園
14. 二条駅(国鉄)
15. 花園駅(国鉄)

京都府立聾学校

市バス御室, 京福電鉄御室 下車仁和寺の中をぬけて裏門(左おく)よりお寺の裏へまわって下さい。(徒歩10分), 市バス⑩京都駅より宇多野行(約35分, 四条大宮からは20分)。または京阪四条南座前, 四条河原町より市バス⑩(約35分)

近江館

東山線熊野下車(徒歩約10分)。京都駅より市電⑥東山線, または市バス⑤。四条大宮, 四条河原町より市電①

楽友会館

東山線近衛通り下車すぐ東入ル, 径路近江館に同じ, (近江館より徒歩10分)但し近衛通りは朝7~9時市電急行運転につき停まりません。

京大文学部心理学教室

市電東山線百万遍または東一条下車いずれも10分, 京都駅より市電⑥または②(河原町経由), 市バスは⑤。四条大宮, 四条河原町よりは市電①。

特別講演

「学習と研究」

京都大学教授 湯川 秀 樹

宿題報告(含授業公開)

司 会: 森 原 一 夫(京都府立聾学校)

古 瀬 正 彦(横浜市立聾学校)

「京都ろうに於ける最近の幼稚部教育」

松 下 貞 男(京都府立聾学校)

シンポジウム 「教室のろう教育」(続)

—教育課程をめぐって—

司 会: 中 野 善 達(東京教育大学)

松 尾 泰 三(兵庫県立神戸聾学校)

助 言 者: 森 毅(京 都 大 学)

中 沢 政 雄(東京都中央区立文海中学校長)

聾学校学習指導要領の作成にたずさわった一人として学習指導要領作成のねらいを中心に、学習指導要領に関連する一般的諸問題についてふれてみたい。

和 田 光 平(横浜市立聾学校)

算数科学力を定着させるために、在来の教科書中心の指導内容と過程を、算数の系統性とろう児の能力にあわせて組みなおし実施してみた。その内容と指導効果について報告・提案する。

大 塚 明 敏(東京教育大附属聾学校)

小学部中学年における学力発達の停滞について考察し、教育課程と関連づけて、検討したい。

研究発表 I

司 会: 小 川 仁 (聴覚言語障害センター)

伊 東 雋 祐 (京都府立豊学校)

I-1 幼児教育に対するろう学校教師の態度について

古 瀬 正 彦 (横浜市立豊学校)
住 宏 平 (東京学芸大学)
小 川 仁 (聴覚言語障害センター)
中 野 善 達 (東京教育大学)
尾 島 碩 心 (東京教育大学)
土佐林 一 (東京都立大塚豊学校)

ろう学校における幼児教育は、最近非常に普及し、これに対する関心は極めて高まっている。われわれは「幼ろう児の教育に関するアンケート」によって、幼ろう児教育に関する、ろう学校教師の意見・態度を調査した。ここでは、これらの結果について報告する。

I-2 接続語と指示語についての考察 (II)

宮 寺 光 三 (神戸市立湊川小学校)

前年度の大会に引き続き、④光村図書出版KK発行の国語教科書・小1～小6の中に出現する「コ・ソ・ア・ド系」の代名詞・連体詞・副詞・形容動詞を中心とした「指示語」の類型別分類、⑤小学校児童の接続語・指示語の理解能力と、聴力障害児童のそれとの比較考察、⑥聴力障害児童の接続語・指示語理解力の発達状態、⑦聴力障害児に対する接続語・指示語の指導法——などについて報告する。

I-3 問題解決の硬さ

田 上 隆 司, 武 藤 玲 子 (栃木県立豊学校)

聾精薄児、普通聾児、精薄聴児、普通聴児の4群の問題解決の硬さを比較しようとして、次の2実験を行ってみた。

(1) 共 飽 和

Lewin K, Kounin J.S, 中村秀が精薄児、聾児にについて共飽和指数を測定し、それぞれのパーソナリティが硬いことを示した。その追試を上記4群について行った。

(2) 中心転換と転移

ある課題状況を生産的に解決するためには、問題の構造に即した認識の中心転換が必要である。また、ある課題状況では、先行経験を転移させて解決ができる。しかし、パーソナリティが硬い時には、先行経験が固定していて、中心転換や転移をさまたげるかもしれない。以上のような観点に立って、カード分類による実験を考え、上記4群について実施した。

I-4 ろう児の積木テスト

——ろう児と幼児についての適用——

土佐林 一 (東京都立大塚豊学校)

ろう児の精神発達を捉えるのに従来の知能諸検査における使用にとかく難点が多く、種々疑問が提示されているが、こうしたことを考慮して、今回木製の積木を用いたテストを試作実施してみた。これによると、正常児童の精神発達も、ある意図のもとに書かれた透視図形に従って積木を構成させてみると、かなり有効に捉えることが出来ることを知ったので、ろう児及び正常幼児についての実験結果について発表したい。

I-5 中学部数学科指導の問題点と指導上の留意点

——標準学力検査の結果分析をめぐって——

島 貫 徳 次 (京都府立豊学校)

ろう生徒の教科学習における問題点を客観的に把握する一つの手がかりとして、京都校中学部においては数年間継続して田研式項目別標準学力検査を実施してきた。そのうちの一部門として数学科についても種々な面からその結果の分析を進めてきたが、ここに発表するのは特に検査結果の誤答分析を通して、具体的に問題点を指摘し、又今後いかに指導上留意しなければならないかについて私見を提起したものである。

私はここで問題を観念的に総括的に述べるのではなく、具体的にろう生徒はこのような問題には、中一において、また中二において、どのような割合で問題解答をなし、その原因は、どのように指導すればよいかと提起したい。それが我々が当面している教壇の実践において緊急の仕事であり研究の方向であると思うから。

研究発表 II

司 会: 土佐林 一 (東京都立大塚豊学校)

石 原 佳 敏 (奈良県立豊学校)

II-I ろう児の発語

——筋電図からみて——

藤 田 正 夫 (大阪市立豊学校)

II-2 「ことばの聴力」の差違について

——ろう学校難聴児と小学校難聴学級児との比較——

宮 寺 光 三 (神戸市立湊川小学校)

①ろう学校在学中の難聴児童と、小学校難聴学級児童に同一の聴力検査（純音聴力・語音閾値・語音明瞭度・有意単語、及び単文の聴取力）を実施した結果、純音聴力に比して、他の検査成績の低い例がろう学校に多く見られた。②湊川小学校難聴学級児童の聴力の変動、及びことばの聴取能力発達の状態についても合わせて報告する。

II-3 ろう中学生の言語能力

——語彙調査を中心に——

福 田 暉 彦 (大阪府立堺豊学校)

ろう中学生の言語能力を、理解語彙数、単語の意味や用法の範囲の理解の能力により調べた。

語彙調査では、国立国語研究所の分類語彙表より無作為に抽出した300語を材料とし、知っているものに○をつけさせた。この理解を検証するため5番目、10番目、15番目……の如く60語に対しては、短文又は意味を書かせた。

以上の語彙調査で得られた理解度とIQ（京大NX9～15知能検査—大阪学大、村井潤一助教授実施—）との相関をとり、また知能検査での言語性因子と非言語性因子との結果を比べながら、量的な面及び質的な面より考察する。

II-4 高等部ろう児の標準学力検査結果 (続報)

岡本 稻丸 (京都府立豊学校)

II-5 報告：普通学校を卒業した聴力障害者

—アメリカの場合—

中野 善達 (東京教育大)

松尾 安雄 (川崎豊学校)

聴力障害者が普通人と伍して学校生活を送ることには幾多の困難点の介在することが予測される。ここではアメリカに於いて、普通学校を卒業した聴力障害者を対象にしてなされた調査 (聴損程度、読話・発語力、卒業校・在学中の特別な助力、現状等) を再整理して紹介する。

講習会

ろう児の知能

第1部 知能とは

知能の問題・ろう児の知能

園原 太郎 (京都大学教授)

第2部 知能の測定方法と結果のみかた

近畿地区ろう学校中・高学部生徒に実施したNX検査の結果・ろう児の知能測定法 (集団用・個人用)、その結果のみかた・知能検査の結果の利用 (学力検査、職業適性検査との関連)

村井 潤一 (大阪芸学大学助教授)

第3部 知能構造とテスト論

知能構造について・知能検査の限界・ろう児用の知能検査は必要かどうか
ろう精薄の問題等

村井 潤一 (大阪芸学大学助教授)

第4部 討論